

令和5年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 3【号】



## 絵本からの学びと遊びの発展

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

絵本はその内容によって様々な種類がある。絵本に対する一般的なイメージは、ちゃんとしたお話としての物語があり、その場面を描写した絵が組み合わされている「物語絵本」ではないだろうか。絵本にはそれ以外にも、「文字のない絵本」や、暮らしや文化、自然科学の情報をつたえる「知識・科学絵本」、絵ではなく写真を用いた「写真絵本」、ページに穴があいていたり紐がついていたりする「仕掛け絵本」など、多種多様である。

「うえきばちです」(川端 誠、BL出版)は、おそらく「ナンセンス絵本」に分類されるだろう。簡単に内容を紹介しますと、植木鉢にのっぺらぼうを植えて育てると、やがて目がでて、歯がでて、鼻が咲き・・・のっぺらぼうだった顔に目鼻がついていき、のっぺらぼうではなくなっていくというものである。最初にこの絵本に触れたとき、理解が追いつかず何のことかわからなかった。

わからないことがあると理解したくなる。ある日、絵本室でその絵本を手にとりて繰り返し何度もページをめくっていると、園児のAちゃんが「何読んでるの?」と聞いてきて、「読んでえ」とせがんできた。そこで、「うえきばちがあつたのでつちをいれて、のっぺらぼうをうえました」と読み聞かせを始めてみた。「めができました」のくだりで、ふと思いついて「Aちゃんの目はどこにある?」と聞いてみると、「ここ～」と教えてくれる。「はができました。Aちゃんの歯はどこ?」「ここ～」と口をニッと開ける。「はながさきました。Aちゃんの鼻はどこ?」「ここ～」と自分の鼻を指でつつんとする。

『Aちゃんの顔にある「鼻」と、うえきばちに咲く「花」って、言い方同じだね。そういえば、目(芽)と歯(葉)も同じだね』と言うと、「ほんとだ～」と気づきを得たようなので、「他にも言い方が同じなのに違うものってあるかなあ」と促してみた。Aちゃんは「う～ん」と言いながら考えている。「あっ、わかった! くも!」「虫のクモと、空にある雲だね。すごーい! 他にもあるかなあ」「え～とねえ・・・え～とねえ」真剣に考えている顔がとてもかわいい。「あめ! 食べるアメとお、空から降る雨!」。

絵本の内容だけをなぞると最初はピンとこなかったが、実際に読み聞かせをすることで、身体の部位の名称を楽しくやりとりし知識の定着を図ることができたり、同音異義語の理解への発展につながった。Aちゃんとのやりとりにはまだ続きがあるが、その話はまた別の機会に・・・。

